

令和6年度 自己評価結果公開シート

保育所型認定こども園ひので保育園

1、評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
Ⅲ 保育者としての 資質や能力・良識・適正	・職員間での報告、連絡、相談を徹底の重要性を全体で再確認。伝達等の漏れがないように各自心がけホワイトボードの活用、口頭ではなく必ずメモ、記録に残すように対策を立てた。
Ⅴ 地域の自然や 社会とのかかわり	・今年も環境教育を行い、環境について考える機会を作っている。環境講演会や講座以外にも意識して、園の周りの自然について子どもたちに伝えるようになった。 ・地域社会との繋がり・関わりではエコ活動やハロウィンパーティーなど地域と関わりがあった。
Ⅵ 保育の専門性に関する 研修・研究への意欲・態度	・クラス会議・クラスリーダー会など連携取るように保育者一人ひとりが心がけている。また、そのことが普段の保育中に出来る研修・研究だという事に気付けた。 研修報告も職員が共有できるように気をつけた。
Ⅶ 地域における子育て支援	・来園された方が心地良い場所であるように子どもたちと一緒に明るく挨拶をしたり、声をかけたり、保育環境にも気を配ったりして園に入りやすい雰囲気作りを心がけている。

2、総合的な評価結果

・保育園として0歳から就学前までの一貫した教育・保育を一体的に連続して行うことを目標とし、今後は今まで以上にカリキュラム・マネジメントに努めていきたい。 ・行事では、多様な体験を通して、子どもたちの発達に即した主体的、対話的で深い学が実現できるよう計画し・立案し、子どもたちが楽しく本来の力が十分に発揮できるように実施できた。 ・認定こども園に移行し、1号認定の定員増により入園児も増加傾向にあるが、そのような中でも、丁寧できめ細やかな保育を行うために、一人ひとりの子どもをしっかりと見据え、ゆとりある保育を実践していきたい。 ・職員の資質の向上を目指し、園内・園外研修や外部講師を招いての研修を積極的に多分野において行いました。 ・職員の福利厚生充実、処遇改善を行い、働きやすい環境、働き甲斐のある環境作りに努めました。

3、これから改善したいこと

評価項目	取組状況
II 保育の在り方・幼児への対応	・幼児期の発達の特徴を踏まえる、遊びを通した学び・自己肯定感の芽生え・生活習慣の基礎を支援できるようにする。 ・子ども主体の保育、「やりたい」「ためしたい」を尊重する。 ・環境による教育や人との関わりを進めていきたい。
IV 保護者への対応・守秘義務	・記録の大切さについて各保育者の自覚が育っている。園としての記録事項及び保存期間の明確な基準づくりを来年度に向けて取り組みたい。
VI 保育の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・研修に自己課題を持ち、積極的に取り組み、報告もできている。ただし興味・関心の幅が広がっていないことが分かったので、行事等の見直しを行い、業務量と質の改善を図り興味や関心の幅を広げていきたい。
IV 保育の在り方・3歳未満児への対応	・安心できる関係の形成として、愛着形成を支える小さなサインを見逃さないようにする。 ・「やってみたい」を安全に行えるように見守り挑戦させる。